幼兒と繪本

（フーコー・ウィプラー）

多田鐵雄

（此頃の亂雜無方針な繪本の氾濫に顰蹙してゐた折柄、獨逸の雜誌「キンダーガルテン」所載の本文を讀みて意を同じうし、こゝに抄譯した次第である。）

繪本は玩具と同樣に幼兒の世界のものである。幼兒の世界は父と母とその家と密接に結び付いてゐる。この世界は全き活動の世界であり、潑溂たる攝取の世界であり、期待と滿足の世界である。如何なる點から云ふもこの第一幼年期の「生れて初めてのこと」、「一回限りのこと」、「二度と再び得られぬこと」がその特徵である。我々成人でもなほこの世界を心の中に持つてゐる。一部は意識的に、一部は我々の魂の奧所に於て。そして我々が責任ある兩親として我々の子供にこの世界を再び與へんと欲する時、我々はこの世界の重大さを感じるのである。なんとなれば十歲の年頃までは我々兩親が我々の子供に取つて凡ゆる事物の標準であり、その後に至つて初めて子供の精神は徐々に獨立して行き始め、他の教育者が我々兩親と竝び現はれて來るのである。

繪本市場に於ける無傾向性

これに關し責任ある必然的な標準と云ふものは未だ明確には存在してゐない。が少くとも兩親は子供に提供される精神的糧（カテ）そのものより、より以上にその糧の正しい攝取につき配慮すべきであることは斷言し得る。でなければ結局は價値なき、

如何はしき、排斥すべき多くの商品に子供は取卷かれる狀態に立至るであらう。あの白眼を剝き出した不快な人形、ゴム製の獸、ミッキーマウス、のらくろ兎等を想起すればそれは明瞭である。

繪本は廣く玩具と同じ分野で見出される。たゞ繪本はその淺薄な本質を金や銀の表紙の下に隱し、セロハン紙に包まれて魅力的に購賣者の手に入つて行く。その他繪本は購買者の注目を索きつける術を知つてゐる。そこには本の中に穴を開けて下の頁の繪が見えるやうになつてゐるものもあり、頁から形體を引起して立てられるやうになつてゐるものもあり、種々な興味を唆つてゐる。又繪が手で容易く切拔けるやうになつてゐるものもある。いはゞその繪本の生命はたゞ切拔けたり、繪を起したり出來る點にだけあるやうな種類のものがある。然しながらかゝる外面的な魅力以外のものが繪本選擇の標準として存在してゐねばならぬはづである。從つて我々が眞にその內容を檢討するとき、驚かざるを得ないものがある。卽ち我々が他の形式、他の場所では斷乎として拒否するに違ひないものが、そこには澤山存在してゐる。我々はこの隱れたる有害な傾向を注意深く觀察すべきである。宗教的觀念を世俗極まりない世界へ引込んでゐる繪本があり、勞働や手工業を輕々しい戲畫化してゐる繪本がある。そこには我々の非常時に觸れるやうな何物もなく、そこには繪本の中のその外面的な滑稽による下品さを何かの意味で救ふべき秩序立つた考へなぞ存してゐない。誰でもこの間の關係をはつきり見れば、かゝる繪や文句の中に、放逸にして、國民に緣遠い、且つだらしない種類のものを認める。それは、生き生きした子供等のために心から骨折るよりはむしろ、道化役で安逸を貪る方を選び、それで以つて人生の重荷を逃れることが出來ると考へ、そして最後にはたゞ彼等の財布を滿たすことばかりを考へてゐる。

彼等の行動が無責任なものとして認識されゝば直ちにかゝる道化的文化は消滅せしめられるであらうし、又今なほ相も變らず黑ん坊や鼠のミッキーや熊のテッディや誘惑的な眼と長く引いた眉毛のハリウッド的假裝のベッティ等に子供の關

心を牽き引けてゐる處の八方美人的文化、及びまるで退屈した大人のやうに子供が振舞つてゐる味氣ない子供部屋も消滅するであらう。それと共に動物とか野原とか森林とかに對する正しく且つ內面的な關係を有たず、日々と年々のリズムをたゞ時計と暦に於てのみ感じ、それ故にそれらの對象を生命のない事物に對するやうにして取扱ふ處の、中味のない誤まれる大人の文化は子供の繪本から姿を消すであらう。大人の文化は是等の對象をたゞ竝べ立て勝手に粉飾し、道化させてゐる。それに對する例はのらくろ兎、ミッキーマウスその他に澤山ある。

繪本に插入されてゐる文章を詳細に觀察する骨折をする者は、こゝでも多くが作爲されたもの gemacht であることを斷定するであらう。事件の進行の簡單な表現の代りに韻を踏んだ句を以て內容を雜亂せしめ、それで以て內容の貧弱さを粧ひ隱し得たものと思つてゐる。繪の表現方法も內容の亂雜さと比例して著しく亂雜になつてゐる。實際に表現の二樣式が存する。一方は甚だ色彩的であり、一方は淡々たる樣式であり、共に單純化が目指されてゐる。然も大概は繪は繪だけのもので、一目見ればそれで萬事が埒が明くと云つた風な單純さである。そして我々はこの表現形式に慣れてしまつて、多くの人々は、時々は有名なる人の名がそこに署名される故に、この點に唯一妥當な幼兒繪畫樣式を見ねばならぬと考へてさへゐる。かゝる著作者がどの程度まで正しいかは後述に於て明かにされる。その他に手輕に筆を走らせる一群の畫家がゐる。彼等はいつも共同作として繪を描いたり、時にはその表現とテキストとの一致に氣を配る勞さへ取らぬ者もゐる。又奔放な水彩畫で輕い氣分は出すが子供に對する深い印象を不可能ならしめてゐるやうな畫家もゐる。

責任を以て滿足なる繪本を探し求める購買者はかくて大抵は幻滅を感じ、自己の幼年時代の古い繪本や或ひは祖父時代のものを取出して來る。——二三のものは現在すでに版を新たにして再版されてゐる。又は澤山插繪の入つた大人の眞面目な本を子供等に提供する。そして子供等がその本を讀み耽り、繰返し繰返し手に取り時々は最も好ましい愛讀者として

受取るのを、驚きの眼を見張つて認める。大人はかゝる方法が決して最上のもので有り得ないことを知つてゐる。然しかかる方法が屢〻大人に取つて繪本市場の無方針、無價値、空漠から逃れる唯一の道になる。この道はそれでも子供を我々國民を尊敬するやうに指導し、子供を待ち設けてゐる生活闘爭に對して强化せしむることを一番確實に約束してゐる。勿論多くのものは不滿足であり、危險なものも又間々存在する。從つて國民養成の大なる使命に參加せしむるためには如何なる方針で子供の繪本を發展せしめなければならぬかと云ふことはよく〳〵思考されねばならぬ。

幼兒に對する誤解

幼兒の眞摯

我々が最近の數十年を概觀するならば「子供の世紀」と云ふ意味で凡ゆる方面から子供の活動・表現に對する計畫的な探求がなされてゐることを見る。子供はその住み慣れた正常の環境から推し出され、出來る丈け專門化されたる問題點から觀察され、又無理やりに問題化された。子供が定着 fixieren したこと凡ては仔細に集められ、記錄され、目錄につけられ、出來るだけ直ちに個々の場合についての教育的斷定が結論された。遂には子供の生活を原子論的に考へる方法によつて子供と云ふ謎を益〻解き難いものにした。兩親と教育者は實際在るがまゝの子供と云ふものを離れてしまつた。いはゞ彼等の本能的自然的觀察を棄てゝしまつたやうである。「子供の世紀」は萬事萬端皆子供から出發せしめる處まで、子供と云ふものを神聖化してしまつた。しかも人々は實は子供をたゞ上つ面だけを見てのことで、決して子供の內面的な努力の奧所で理解したのではなかつた。

眞實に於ては幼兒の行動表現の一見甚だ轉變常なき現象を、一つの深い眞摯さが貫通してゐる。この眞摯さは、幼兒の本性天性に基く動作と同じく、生れながらに備はつてゐるものである。又この眞摯さは遂にはこの本性天性を發達させ外部の力に拮抗して活動させることを可能ならしめるものである。幼兒が一つの事物に沒頭する强さ、幼兒が一つの事物を固持し又望むことをどうしても思ひ遂げる粘り强さ、は卽ちこの眞摯と云ふ內面的迫力の威力を證示するものである。幼兒は何事をも重大に取扱ふ。大人の上つ面的なことは幼兒には緣遠いことである。卽ち幼兒は彼等の存在に關聯する問題をフレッシュに感受する故である。現狀への理解の成長、現狀との對立、現狀への組織參加がそれである。

大きな眼で以て、善なるものに對する全幅の信賴を以て、眞なるものゝ發見に努力しつゝ、幼兒は世界を觀察する。故に若し幼兒がときたま驚くほど速く或る一つの事柄に對して何か或る見解なり意見なりを得たからとて、それは幼兒がその事柄を理解してゐないのだとは必ずしも云へないのである。幼兒は屢〻多くの大人より、より良く「誰が子供を尊重してゐるか」「誰が善良で誰が惡意あるか」と云ふことを知る。大人に在りては部分的には鈍つてゐたり、もはや活動しなくなつてゐる意識を幼兒は充分に働かせる故に、昔の云ひ慣はしの「子供の口は眞理を云ふ」と云ふことは事實多く正しい。

幼兒の眞摯となつて現はれてゐる處の事物に對する內面的意識が、一見幼兒の能力では及ばないやうに見える事物に對しても幼兒を接近せしめてゐる。たとひ幼兒の行爲が大人の眼には屢〻些細なことに映るにしても、然し幼兒の用意用到さは確認され得ることろである。又仕事に對して一つの意志が働いてゐると云ふ事實を大人が見逃すならば、幼兒の憤激、幻滅を必ず認めるであらう。この意志の存在と云ふことは然し、決して看過すべからざることであるはづである。幼兒は彼の存在の凡ての纖維で以て自己以上のものへ成らうと意欲する。正に在るより以上のものへと努力する。幼兒の魂が希求する處のものは、當初は兄であり姉であり、次に學校の生徒であり、兵隊であり、決死隊である。幼兒は疾風的な

勢、突進的な歩調で、幼兒の未だ明かにされない希求を最後に大人の世界へ行つて滿たそうとする善良なる信念を以て、大人の世界を目がけて努力する。我々は幼兒に何の課題も與へないことによつて、又幼兒が求めてゐる世界への洞察を言葉と繪とでむしろヴェールで散ふやうに隱し曇らすことによつて、又は幼兒には何もなすことが殘つてゐないやうに幼兒のためにすつかりお膳立をしてしまふことによつて、大人が幼兒を屢〻繪本によつて幻滅を感じさせてゐることを知つてゐる。然し正に自己活動こそが幼兒の能力を喚起し、幼兒の努力に養分を與へるのである。

幼兒の陽氣性

繪本の大部分は馬鹿々々しい極みの放埒さが充滿してゐる。兩親がその子供に他の場合には禁止してゐることがこゝではシュヌキーだのムッキーだののらくろ兎だのミッキーマウスの繪として色々の惡戯や不法を薦めるやうな不適當な內容となつて幼兒の眼前に示される。學校も充分に物笑ひの種材につかはれてゐるに違ひないし、失業や生活難も笑ひの題材になつてゐる。人々はこんな無法なことで幼兒を喜ばせ得ると信じてゐる。然も幼兒がかゝる馬鹿げたことによつては、たゞ煽動されるばかりだと云ふこと、又幼兒の信賴と幼兒の善良な意見を生活の秩序から動搖させる分裂へ陷入れることを氣遣はうとしない。若し幼兒が自分自身でかゝる無法なことをなすとしても、それは幼兒の本性ではなく、つねにそれは過度の强制に對する反動であり、缺點ある指導に原因する退屈の爆發である。

反之我々は幼兒の天性快活なる心情狀態、卽ち幼兒の陽氣性を指摘しよう。この無頓著さ、陽氣な氣分に浸り切つてゐる狀態は我々の乳幼兒に在つても旣に音聲や片言の反復に於て、喜ばし氣に手足を動かす樣子に於て、又手近の品を手に取つて投げる點に於て、少し大きな幼兒に在りては歌に於て、活動の反復に於て現はれてゐる。そして幼兒の遊戯もこの氣分から生ずる。卽ち女兒にありては毬突き、輪遊びが、男兒にありてはトテチテタの兵隊遊びなど。兒童の陽氣性とは

何物からも縛られない最も愉しい狀態であり、何等目的を持たざる漫然たる反復的活動であり、それは幼兒の心情の自己內面的な煩はされざる活動である。かゝる認識は我々をして童謠、民謠及びぐる〳〵廻つて又元へ戻る循環歌へ、又繪本を仲介とする遊戯形式へ注目せしめる。

幼兒の心情

大概の繪本の繪や色彩に於ける香氣の無さ、動植物の描出の氣儘勝手さは、幼兒が纖細な全體情調を持たず、自然本然の關係を理解する能力なきものとする如き外見を起させる。幼兒は草花や動物に對し特に親密な態度を持つ、而も彼の心情狀態が他の存在を共に包み蔽うてしまふ程インテンシーブである。幼兒の生活は可成長い間、圍繞する環境の世界と完全に不離一致してゐる。幼兒は花に向つて「お休み」と云ひかけ、又犬がいつもは家族の一員に遇せられ、人々が云つて聞かせることを犬がいつもは了解するのに、人々はなぜ犬を食卓に列せさせて一緒に食事を取らないかを怪しみ驚く。花が人間の顏をしてゐないにも拘らず、又動物が普通は人間のやうには教育されないにも拘らずこの親密な態度が存立する。そして幼兒は花が人間の顏を持たないのを變裝してゐるものと感じ、動物のそうした取扱ひを冗談でそうしてゐるものと感ずる。そしてこれは幼兒に取つてはむしろぴつたりしないことである。事物はかゝる作爲により戯畫化され上つ面化される。以前にそれ等に向けられてゐた愛と尊敬は不眞面目さに變つてしまふ。自然に於いても又繪畫に於てもその情調は同じことがある。確かに一人として幼兒はおそらくそれについて口に云ひ現はし得ないが、然し幼兒は甚だ早期から、明るい喜ばしさ、暗い脅威、華美な光輝さ、神聖な崇高さから心打たれ、彼自身の全體情調はこれらの印象によりて變形して行く。幼兒の心情は荒削りな感受性以上のものであり、より深き、上つ面ならざる事實の直覺的把握であり、外部へ作用する活動であるよりむしろ精神的な態度である。

幼兒の繪畫理解

人々は繪畫の理解を幼兒に容易ならしめるために、幼兒の手で繪本を描かせ、それで幼兒は滿足してゐるに違ひないと思ふところまで行つた。然し飛んでもない。幼兒はその繪を冷笑し、「こんなの自分だつて出來る」と云ふ。そして幼兒はそれ以上のものを熱望し、就中何か景仰し得るものを欲し、彼等には到達し得ぬ業績が表現の中に在ることを欲する。

幼兒が如何にして繪を體驗するかと云ふことが決定的に知られねばならぬ。我々の新らしいドイツの全體心理學は、幼兒をその凡ゆる表現に於て同時に觀察し、凡ての個々の事實を精神全體へ關係させ、幼兒を生活と關聯する位置へ据えるべく努力することによつて、これに關しての根本的な解明を與へることが出來た。

幼兒の繪畫生活は、感情と尊敬とによつて規定される處の精神的事象である。中心的總體特質が興味の基調音を與へる。又その基調音は、たとへば森の寂莫、童話的素敵さ、落付いた明瞭さ、氣儘な拙ない筆致等の情調、即ち內容的なものからも、又それ等の印象、即ち表現方法からも規定付けられる。この總體特質の中心的感情及び價値感は繪畫生命の長い經過に於ては、强く感情付けられたる特殊印象へます〳〵分離されて行くが、然しこの特殊印象を最初の興味の基調音に一致させやうとする努力が絕えず働いて行く。

繪の中へ沈潛するに必要なるは、個々の形式を遊離せしめることによつて高められる處の明瞭性と概觀性である。然し雜駁な形式化、單純化が生じてはならぬ。然らざれば無活潑な感情、空漠が生じて來る。自然に忠實なこと、正確さ、極く小さな個々を顧慮することが、幼兒から要求されてゐる。幼兒は時の過程を含む詳細なる表現を尊重する。なんとなれば幼兒は繪畫を歷史と同じやうに受取る。幼兒は個々の事物を順々に讀み拾つて行き、その事物の中へ沈潛し、事物を味ひ盡し、その際繪畫の總體情調から支配される。その繪はその表現によつて既に第一印象に於て、童話として、或は無味

乾燥な世界の出來事の表現として、或は事物の卽物的報告として、幼兒に話しかける。

表現の明瞭性、眞實性、豐富性は幼兒が繪に對して與へる價値標準を決定する。この點から藝術家に對して一つの使命が生ずる。卽ち藝術家から最も眞劍な勞作を要求する。

幼兒生活樣式へのこの洞察は、幼兒をその年齡の孤立から救ひ出して來て、幼兒と大人を結びつける處の人間本性、民族固有性を强調せしむる。かくて我々は幼兒の中に再び我々自體を發見認識する。幼兒の內面には、人間本性及び民族的結合によつて、我々固有の努力、我々の感情、價値感が內在し、作用してゐる。大人に對してこのことからして、義務が、卽ち引受くべき指導の義務が、より深い洞察から、より大なる明白性から、又將來が必要とするドイツ人の決定的な樣相はこの傾向の完成に於て形成されると云ふ、必然性の意識から起る。

我々がドイツを繪本のいかに作り上げるべきかについては、先づ昔の時代がその子供達に與へるに役立つと思惟したものをふりかへつて見るを可とする。

百年前の繪本の實例

繪本は直觀と知識を傳達す。

初期の兒童繪本(寓話集、手ほどき等)に於ては繪は極くわづかである。コメニウス(一六五八)の世界圖繪が繪本に對する決定的な轉換をなしたことは明かな事實である。この本の繪はその時代人は讀み習ひ、世界への初印象を獲た。世界圖繪は續く數百年に於て多くの重版及び改版をなしたが、子供と繪によつて直觀と知識とを傳達する原則は、子供繪本の最全盛期に於てもその妥當性を保つてゐた。

ほゞ一八〇〇年以來繪本の全盛期が起る。兒童の本は支配的な時代精神の表現になつた。合理主義、敬虔主義、新獨逸運動、ロマンテーク運動は繪本に反映し、我々に尊敬を起さしめ又多くの見地から範例となり得る最頂點へと繪本は達した。兒童は彼の眞劍に取扱はれたいとの本能的な努力の中で、感動を受け、又世界を學び知つた。ＡＢＣ讀本、繪のアルファベット、繪鏡、繪大學等に於て兒童は村や町の有樣、生活を、又如何にして大人は日常その職場、職業に於て働いてゐるか、如何な風に見知らぬ人々、國民が存在してゐるか、又そこの子供はどんな遊びをしてゐるか等を習ひ知つた。

凡ては銅版で細かく愼重眞面目に刷られたか、或は石版刷で大概は彩色されて丹念に描かれた。それらの繪は凡て眞實性に充ち、個々のものゝ規範的形象を認識せしめ、然してこの方法で兒童を神の意圖せる生活秩序へと引入れてゐる。人間活動の根本機能はこの繪によりて兒童に遺憾なく示された。

如何に百年前の人々が圓滑に且つ印象的に言葉と繪を形成することを知つてゐたかは、Ｆ・キェデの一小册子「裸麥の穀粒」に於ても示される。こゝに、最後の總括的テキストを引用すれば、「農夫は先づ耕す、充分に種播く、地畑はそれを蔽ふ、雨が降りそそぐ、雪が包む、太陽が溫かく照る、風が搖り動かす、粒がその中に出來る、刈入人が刈取る、打穀者が輕くティプ・タップ打つ、驢馬がパカパカ運ぶ、水車がガタンガタン廻る、母が混ぜ合せる、パン屋は釜に入れる、パンが出來る、子供等がそれを喰べる、裸麥よ、その道のりは長いものだ。」と。

自然の偉大さと威大に想倒せしむるやうな深い印象に對して子供らしい考へ方をさせるに適してゐたのは「自然、世界及び人間生活の描寫。自然の圍の最も注目すべきこと。その他」であつた。こゝにはリサボンの大地震、ベスビヤスの噴水、怒濤の中の難破船等が二度忘れられぬ筆力で繪の中に現はされてゐる。

繪本は意義深き樂しみを與へ、ユーモアを以て教訓す。

兒童を意義深き活動へと刺戟し、退屈を起させず、又心から愉しく笑ひ得せしむることに意を注いだものに「樂しみと學びの本」「子供のよろこび」「勤勉なる子供のための慰み」などがある。それらは凡ての愉快な行爲の中により深い眞理の種子が藏されてゐる。卽ち冗談と眞劍とが隣合つて存在してゐる。かくて最大の歡喜がより深い認識の象徵にまで高められた。

時代が一つの傾向をしば〳〵あまりに切烈に强調してゐる場合もある。たとへばこの時代には道德臭が多分に在つた。そのことは我々もよく知つてゐる。我々は然しこれを決して推稱するものではない。

繪本は生活の緊張の中へ引入れ、日常俗事を繪によつて純化す。

兒童の心情へ作用した點では昔の繪本は唯一のものであり他は遠く及ばない。知識の傳達に向けられた繪本に於てすらも、日常俗事の雰圍氣から繪本を高める處の對象に對する深い愛で關與して行つてゐることが明かに感じられることを我々は既に言及した。童話、物語、寓話、母の歌、愛撫の歌、當時の自然及び人間生活の表現と、グリム兄弟、ムゼウス、ブレンターノ、ヘーベル、フレーベル等の純粹ドイツ的國民性の先驅者報告者の名前が結びついてゐる。彼等は拮抗し難き强力さで、兒童を生活の緊張の中へ引入れ、又優しき佳調から感動的な悲劇までの感情のあらゆる段階を兒童をして體驗せしめてゐる。大なる能力と溫かき心を持つた藝術家、例へばルードウィッヒリヒテル、テオドルホーゼマン、モーリツフオンシュウインド、オットーシュペクテル、パウルフォーゲル、カールフレーリッヒ等も凡てその通りであつた。

彼等はその國民の思念と希望の中へ自ら身を入れて感じたし、又國民の眼を以てその故郷の姿の中に平和に充ちたるもの、惱みに充ちたるもの、强力なるものを感得した。彼等の藝術はその感受したものを平滑に詩的なものに形成し、事實を純化したのである。かくて繪自身が童話になつてゐる。自然を抑壓することなくして、かく自然を藝術へまで高めてゐる點にこそ、繪の强い魅力と、心情へ及ぼす深い作用が存在してゐる。

新使命

子供の本の全盛期の繪本を觀察して我々は、如何なる方法で一つの强い作用が幼兒に影響して行つたかに就いて知ることろ多かつた。大人が本能的に指導する方向と幼兒の傾向とがこゝでは一致してゐた。この一致は過去の繪本の再製が我々の時代への解決なりとする懸念を生じせしむる。この方法處置は個々の場合には正しくあり得やうとも、全體から見れば、それと共に幼兒繪本は我々の時代の使命ではなくなるであらう。なんとなれば、例へば全盛時のやうに、繪本が時代の支配的精神の表現になつてゐる時に於てのみ繪本は國民の教育に於ける作用的要素と成り得るのである。今や時代精神はナチス世界觀を以て我々國民を新たに飛躍せしめてゐる。

この新世界觀が最良の獨逸性に如何に深く根付いてゐるかを我々は知る。それ故に過去のものを凡て拒否することは勿論妥當せぬ。むしろ過去のものゝ內、價値あるものを、それを意義深く新らしき努力に役立たせるために選り出すべきである。それと竝んで今日の生活の新らしき見解、生活の新樣式が幼兒繪本に於て、古代及び恐らくは未だ現代すらも充分なる鋭さでは認識せしめてゐない處の新らしき土臺の上に構成されることが希望される。

古き要素の評價

國民の長所は再び呼び醒されねばならぬ。

我々が祖先について知る限りでは彼等の運命は彼等の心の持ち方とつねに結び付いてゐる。彼等は心の中で一つの內面的先天的法則に從つてゐた。この法則が彼等の長所を完成したのであるし、數千年を通じて現代までも引續き作用してゐるのである。「誰は如何なる心の持ち方をするか」と云ふ點で我々は我々に屬する人を識別する。獨逸の英雄詩、獨逸の童話、獨逸の寓話は獨逸人の心の持ち方を適切に、はつきりと一義的な姿で示した。又その心の持ち方のタイプに對し獨逸人はどうであつてはならないかを示す反對的タイプも對立的に示された。獨逸の民族感情の尊重から出發せる善と惡との關係は千變萬化に變化して、再び兩親と子供、兄と妹、總統と部下との關係の中へ反映してゐる。忠實、勇敢、犧牲的精神が勝利を得、狡猾、臆病、利己心は打ちのめされてゐる。惡の力は奸智と詐謀であり、冒瀆と束縛である。善は悧巧と賢明を識別し、從順と忍耐と約束履行を知る。勇敢は弱小なる者にも力を與へ得る。幸福は恒に善と共にある。

この長所が今日でも尙家族を結合させ、總統と部下とを一致させる秩序を形成してゐる。この一致に對しては何等の批難も侮辱をも加へることは出來ぬ。我々は幼兒をこの獨逸人の長所の象徵へ誘導することによつて、幼兒の中に既に早期から彼等の最善にして最强の力を眼覺ます。

自然に對する及び自然が我々に與へてゐるものに對する注目と畏敬が取戻さるべし。

我々國民の大部分が都市へ密集してゐること、昔と違つて狹隘な借家に居住する結果は人間を益々自然から隔絕した。

自然は以前には家庭生活の中へまで入込んでその生活リズムを健全たらしめた。純粋な僞りなき自然との接觸が益々まれになるにつれ、自然を心無き對象として感じ、心無き方法で自然と交渉する自然からの離反が生じた。殊に幼兒は奇蹟に對して感じ易い心を持つ故に、つねに新たなる創造的活動的自然に對する注目と畏敬を繪本で養成することは容易であらう。幼兒が關係する多くのもの、又幼兒が日常必要とするものは一つの長い道程を經て來たものであり、太陽と雨の下で成長したのであり、それが最後に幼兒に奉仕すべく手許に來るまでは、長く育くまれ保護されて來たのである。我々は昔の兒童繪本の中に斯かる變遷の素朴にして飾りない描寫を發見する。過去の幼兒に取つてはかゝる變遷は大體に於て自己の直觀からしても未だ容易に知り得るものでもあつた。我々の幼兒に對しては都市と田園との判然たる隔絶によつて又大企業の結合によつて、大體は隱されてゐる。こゝで繪本は思考と心を開いてやらねばならぬ。そして有機物秩序の理解を幼兒のために準備せねばならぬ。

も一つの點を我々は指摘したい。現代に於ては益々迫害に曝されてゐる處の野外に生活する動物は、我々が例へば鳥の孵化狀態又は季節々々への意義深き順應などに於て發見する如き範例となる本能生活については僅かしか觀察されない。野生動物は森林の深みへ、沼澤深くへ、又道のない叢林へ引込んでしまつた。然し正にこの隱れてゐることによつて、意味なき殘虐破壞への刺戟を與へる結果になつてゐる。繪本は早くから幼兒に動物の家庭的生活を眼前に示すべきであり、彼等の巢を造る熱心さを、又雛が獨り立ち出來るまでの親鳥の世話を、冬のための彼等の準備を、又最後に危急時に於ける逸走避難を幼兒に知らしむべきである。それは鄉土に於ける動物を茶化してしまつて帽子やスリッパをはかせなくては幼兒に殆んど考へ得られぬやうになつてゐる繪本とは全く別のものである。

又大自然の微生物の生活すらが、我々の自己の生活の表象となるやうな驚異に滿ちてゐる。蜂と蟻とは以前から人間に

勞働の手本であつた。「蟻の許へ行け、そして彼を學べ」。各々がその職場に於て全體の保全のために如何に奉仕するかを我々の幼兒に示せ。蜂の巣や蟻の家の中に祕められたる祕密の生活を幼兒に明かにせよ。それも自然科學的知識のためでなく、例へば裸麥の實例が凡ゆる素朴さ自然さで示されてゐる如くに、在るがまゝの姿で示せ。

ナチス國民福祉は國民教育に於て自然の理解に對し模範的な道を先驅した。大人に對し今日なほ示されねばならぬことは「我々の獨逸の森を守れ」であり、「母と子を離すな」であり、そのことは又我々の幼兒にも幼少から意識の中へ深く植付けられねばならぬ。

勞働・勞働しつゝある人・その仕事・に對する尊敬は社會的感情の基礎をなす。

百年前には人々は人間の勞働及びその勞働に基く祝福を印象深く幼兒に提示することをよろこんで骨折つた。今日に於ては人手の活動は機械によつて止められ、硝子と鐵の企業の蔭へ隱れてしまつたが、然し最後には創造的な人手の秩序ある效果が企業の根柢に横はつてゐる。今の繪本は煙突掃除人やパン屋などで滿々てゐる。それは益々幼兒の嘲笑の目標にと下落して行つてゐる。

幼兒に勞働に從事する手工業者を示せ、又五月一日（メーデー）に彼等の職場から堂々出發する群列を幼兒に示せ、そうすれば幼兒は彼等の活動について機械の助けに對する理解を得るであらう。我々の生活の技術化と分化は數多の新らしい榮養、職業を發生させた。それは昔の繪本には存在せぬ。故にこゝに於て機械の役割を示すこと、人間の手に存する責任、創造的人力及びその世界を示すことが必要である。是等の職業が尊敬の伴はぬ凡ゆる戲畫から救ひ出されるならば、ユーモアはユーモアなりに生活の秩序を紊さぬ場所に己れの居場所を見出すであらう。

凡ての勞働はその職場が中心である。我々はそれについてたゞ見物人として感じる丈で、如何に多くの人力が職場で活動してゐるかに對して多くの考へを致さぬやうになつてしまつてゐる。幼兒は一つの新築を數時間でも眺めてゐることが出來る。だが減多に種々の活動の意義深きことが幼兒に明瞭にされぬ。一つの職場が成立つために必要なる凡てのものを、卽ち組織的な構成を幼兒に認識せしめよ。

獨逸の文化映畫は多くの事物を大人に對し適切なる寫寫に於て眼前に示す。かゝる一覽概覽はそれが容易に幼兒にも理解し得べき事象なる限り、幼兒にも與へられねばならぬ。如何に街路が造られるか、如何に自動車道路が出來上るか、を、その年齡に於ては不適當なる如き深い分析を加へることなしに、示せ。

但し我々が上に引例したものゝ內容を示すに當つては、いかなる方法が言葉と繪の正しい表現となるかの點が最も重大なことである。

形式に於ける氣高さ、高尙さが努力されるべし。

昔の繪及び格言に於て我々はその表現の必然的形式を見出す。昔の繪及び格言は事物の核心を衝いてゐる。人々は今日でも尙、單純化によつて、卽ちスケッチ風の表現により、又は均整的な根本形式への還元により、又は色彩を三原色だけに止めることによつて繪の中の本質的なものへ到達し得ると信じてゐる。

最古代の繪に於ける原始性——ドューラー時代以前の木彫の如き——は新らしき印刷術との開拓的協力であり、この協力の結果完成された形式が生じたことを我々は考へて見る必要がある。前世紀の大なる有能者は如何なる場合に於ても、卽ち彼等が幼兒のために描くときでもその最大限の能力を盡した。そして大なる效果を擧げた。彼等は自然を低下せしめず、むしろ自然を彼等の模範的純粹的特色にまで高め上げた。彼等はその注意を一部分又は或る限界に捧げたのでなく、

彼等の心には全體と云ふものが、完全な姿で映つてゐた。對象をかく把握することから出發して彼等は、それ〴〵豐富であつて、而も繪の中に生活の意義深きものとして登場する處の形式へと到着した。かくて對象は生命を得たものとして働き、それによつて彼等が僅かな線で滿足してゐる處でも、その形式は決して空虛ではない。却つて凡ての部分から生命が溢れ出てゐる。かゝる感得せられたる形式は我々には「高貴な」ものとして感じられる。

我々は幼兒が言葉を語る處の繪を見ることを欲してゐると言及した。幼兒は中身のない袋だけでは滿足しない。幼兒がその最幼少の時には事物の本質を色に於ても形に於ても、たゞ粗雜な區別並びに幼兒本然の特質で理解することは我々も知つてゐる。然しそれだからと云つて色と形を反對色、相反形で示すことを以て幼兒繪本のスタイルとなすやうに導いてはならぬ。なんとなれば精神的活動の根本機能が幼兒に於て發育すれば、幼兒はかゝるものをすぐ超えて成長してしまふ。

幼兒の表現能力は他の分野で完成する。それと繪の觀照能力とは嚴密に區別されねばならぬ。幼兒が自分の繪で人間の頭をほゞ一定の形で表現し得るずつと以前から、繪に於ける甚だ微妙な心的變化を幼兒は認識し得る。

繪の需要者は將來に於ては再び確實なる手腕を有し、自然へ深き愛で沈潛し、自然の本質を理解し明瞭な表現を示す能力ある藝術家へ向はねばならぬであらう。それは本世紀の初頭にかの藝術教育運動との關聯に於て效果的に起つたことである。藝術家が眞劍さと責任意識を再び獲得すべきものたると共に、戲畫やグロテスクな畫は幼兒の繪本から驅逐されねばならぬ。

新基礎に立ちての建設

新國家に於ける幼兒繪本が果たすべき使命は上述の如く從來の形態の價値あるものを新たに生ずる生活の流れへ運び入れることに汲々たるべきではない。運命を開拓する力を明かに認識し、その時代のみが解決し得る新形態へと突進んで行く處の我々の時代の鬪士的精神こそが、目標とそれと向ふ道筋を定める推進力となる。

國民的感情の强化

幼兒の繪本へまで根强く食込んでゐる從來の世界觀の有害なる傾向の淨化へ國民的結合の改革的思想は進んでゐる。コスモポリタン的寬容は我々幼兒に對しなほ相變らず黑奴や凡ゆる種類の異民族を遊びの友として與へやうとしてゐる。幼兒の健全なる感情は彼等を同胞として認識することを拒否し、人々の期待に反して、先づ驚異と笑ひが爆發する。この異種族に對する本能的拒否を巧妙なる僞裝によつて克服することは自由主義的領域の狡猾さ、職業的熟練によつて保たれてゐた。我々の感情に全く對立するこの民族は再び彼等に適應する場所を占めねばならぬ。彼等が繪本に登場するならば彼等はヨーロッパ文化での虛飾にも拘らず今日の時代まで彼等の行爲の中に保持されてゐる處の異民族的異種族的なものゝシンボルとしてでなければならぬ。彼等は決していたづらに幼兒の娯樂の種となるべきでない。

更に、前世紀並びに現代の繪本を見るに全卷を守護の天使に捧げたる信仰的敬虔的思潮の遺物として、エンゼルが過度に廣い空間を占めてゐることが著るしく眼に付く。我々は幼兒を天帝の奇蹟から引離そうとするものではないが、然しかかる屢々無思慮な又却つて非宗教的な天使活躍は幼兒に自然のより大なる奇蹟をそれが永遠に更新されるまゝに示し、その上正しきと誤れることに對して決定力を有する人間を示す代りに、幼兒を「凡ては自然に解決がつく」と云ふ信仰へ移す惧れがあるのを配慮せねばならぬ。我々の幼兒を正しく認識すべき明白なる決定の前へ置き、彼等の健全なる意識を切實なる比較によつて强化し、彼等を熟達せしめ、取るべき態度を知らしむるならば、我々は彼等を生活に對して有爲なるも

のならしめ得ると共に、而も我々の權限外の領域に觸れずにすむであらう。

國民性自覺の涵養

國民性と密接に結合せるものは故鄕、格言、詩歌、遊戯、慣習、祝祭等に現はれてゐる國民結合的力の精神である。自信、强固、優美、敬神への努力は國民的義務になる。これらの特性が後に國民の象徴として幼兒の心に深く銘ずるやう、早くから幼兒もその詩歌、格言等に於てこの雰圍氣へ導入されるべきである。

政治的生活の潮流は我々國民に深く浸潤してゐる。そして幼兒をも引入れてゐる處の新時代を作つてゐる。國民的勞働の日としての五月一日（メーデー）及び收穫祭は幼兒の體驗に直接的な關聯に立つ。繪本は祝祭やその他色々の印象生活保全のための勞働、努力、鬪爭の象徴にまで深化されるやう配慮せねばならぬ。

社會感情の高揚

市民的時代に於ては協同體精神の涵養は特に家庭に於て又家庭を中心としてなされたが、それがこの境界を忘れた時益々功利的原則へと墮して行つた。國民協同體の思想は家庭の協同體活動に新たに使命を與へ、且つ繪本が效果的に準備し、確信的に理解せしめ得べき形式へと形成せしめて行つた。幼兒はクリスマスのサンタクロースにたゞ自分のためにのみ親しむのでなく、早期から大人の犧牲心を理解し、新生活が彼から要求する處の犧牲精神へまで教育されるやう、サンタクロースが他の貧乏な同胞に對しても贈物を送るやうに習慣付けられねばならぬ。冬季救醫工作は凡ての國民同胞を活潑なる愛情と配慮を以て相互に結合せしめ、扶助力へと義務付けてゐることが實例を以て示されねばならぬ。

生活の新體形への導入

國民の凡ゆる部門の全體への統一の思想は我々の行軍的隊形にも現はれてゐる。青少年はこのリズムから最も深く感動

をうける。現今、出來ればすぐ突擊隊員又は兵士にならうと欲しない靑少年は恐らく一人もゐまい。小さな幼兒さへがこの目標へと突進する。この傾向を彼の心の中で强めることが我々の責任である。繪本は幼兒に國防軍、獨逸兵の映像を深く魂の中へ印象付けねばならぬ。

問題はスナップ風に幾つかの兵士生活の繪が斷片的に示されるだけでは解決されぬ。斯る印象は幼兒が生活自體で自ら手に入れる。幼兒はより多くを知りたいのである。眞實のものを眞實ならざるものから區別して示されたく思ふ。武器の實際とその使用法を、兵士は如何にして死に面するかを知るべきである。斯る繪本は然し各兵士が所有する軍隊入門書の如きものがたゞ子供向きに書き直されたゞけではならぬ。それ以上につねにテュピカルな感情が再現されてゐねばならぬ。

技術への熟知

他に比較して技術はそれが幼兒の體驗に於ては幼少の頃から一つの廣い空間を占め、我々の世紀に於ては一つの決定的特徵をも與へてゐるに拘はらず、幼兒の繪本に於ては極く僅かにしか取入れられてゐない。繪本はありふれた交通機關の表現以上を殆んど出てゐない。

繪本も又我々の自動車道路が國中を貫通して居り、巨大な橋が架けられ、規模大なる工場が施設されてゐる時代に順應し、幼兒をして我々國民の巨大なる業績に誇りを抱かしめることが必要である。早くから幼兒には、鳥のやうに飛翔し、巨大な歩みで遠距離を克服し、水上を歩行する憧憬がめざめる。この幼兒の希望夢が幼兒の單なる遊戲を超へて技術的解決へまで發展して行く。卽ち飛翔（鳥と共に飛ぶ、投箭、グライダー、飛行機）、浮揚（シャボン玉、風船、落下傘、輕氣球、ツェッペリン）、水上歩行（葉の舟、丸木舟、大洋の巨船）その他。かゝる繪本が同時に意義深き活動への刺戟を與へうること、又幼兒の歌、言葉のあそびをも取入れ得ることは自明のことである。

結語

以上の觀察は幼兒繪本を新時代に取殘されてゐた狀態から引出してゐる。兩親、教育家、そして教育事業に責任を分擔してゐる凡てのものは幼兒繪本のために反省しなければならぬ。我々は繪本に於ける無責任な仕方及びその害毒を示し、國民の訓育のために戰はねばならぬ。

我々兩親、教育者はその際責任ある出版者、詩人、藝術家、書籍商の協力を仰ぐ。なんこなれば同一義務こ同一義務認識こが我々を一致させてゐる。

幼兒こそ我々國民の未來である!!

(完)

倉橋主幹此の夏休みの講習日程

七月

十二日〜十三日　松江市(文部省青年學校講習)
十五日〜十六日　名古屋市(文部省青年學校講習)
十七日〜十八日　京都市(京都市保育會講習)
十九日　大阪市(私立幼稚園聯盟講習)
二十一日〜二十七日　東京市(文部省保育講習)
二十八日〜二十九日　東京市(昭和保姆養成所保育講習)
三十日　東京市(女子體育研究會教育講習)

八月

二日〜七日　世界教育會議
十日〜十一日　靜岡市(靜岡縣青年學校講習)
十三日〜十四日　佐賀市(文部省家庭教育講習)
二十日〜二十一日　見附町(蒲原郡教育會教育講習)
二十二日　京都市(西本願寺保育講習)
二十六日〜三十七日　札幌市(文部省家庭教育講習)